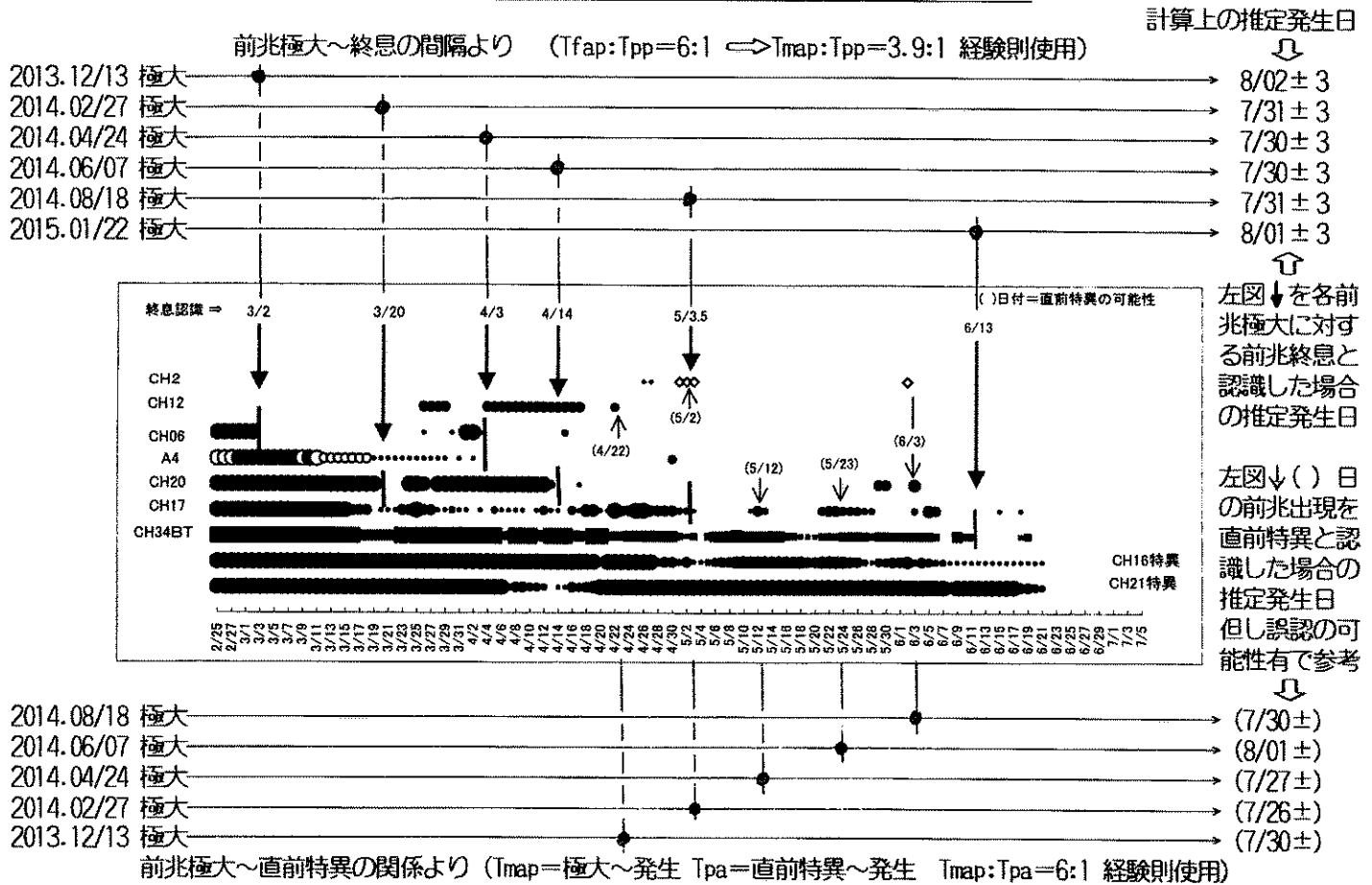


原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北社市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

前兆変化と発生推定時期について



左図↓を各前兆極大に対する前兆終息と認識した場合の推定発生日

左図↓( )日の前兆出現を直前特異と認識した場合の推定発生日  
但し誤認の可能性有で参考

6月12日±に前兆が完全終息しなかった理由

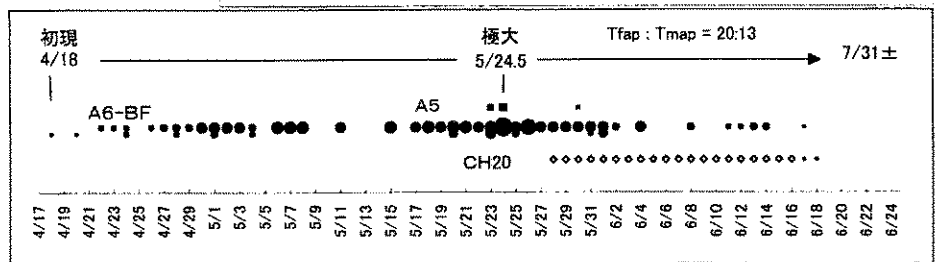
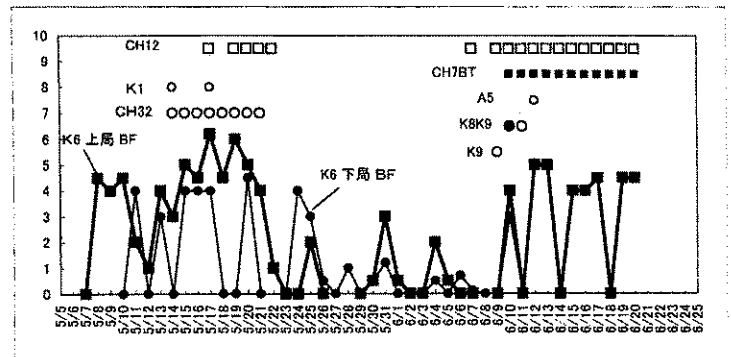
→ No.1778前兆の別形態前兆群が出現

No.1778長期前兆は最終段階認識でした。第7ステージ前兆群の最終認識前兆は、2015年01月22日で、仮に現認識推定の本年07月31日±3 時期に対応地震が発生となる場合は、前兆極大～発生：前兆終息～発生=3.9：1 経験則 を使用して、逆算しますと、06月12日±に全ての前兆が終息することが計算されていました。

しかし、上図のとおり、CH16とCH21の特異状態が弱く継続し、全ての前兆が完全終息致しませんでした。

FAXとE-mailにより日々配信しております実験観測情報では既に報告しておりますが、右図のとおり、05月上旬より高知観測点のK6に大きな変動値のBF前兆が出現し、現在も継続出現しています。K6観測装置は、基線に対し①上局=函館250w局or新居浜100w局

②下局=伊豆100w局でBF前兆が出現します。出現BF前兆は基線に対し両側局によるBFが確認できます。現在のK6の前兆出現形態は、K6の検知領域である東北領域、中部東海～近畿の過去の地震前兆形態とは全く異なります。また、上図下側の通り、



秋田観測点のA6観測装置にBF前兆が04月より出現し、5/24日に極大認識されました。A6影響局は①函館250wor氷上100wと②西脇100wor新居浜100wです。～次頁No.89へ続く～

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

(続報 No. 088からの続き)

前兆変化と発生推定時期について

A6-BFの初現認識=4/18 極大認識=5/24.5 を前兆初現～発生：前兆極大～発生=20:13 経験則を使用して計算しますと、現在推定しているNo.1778前兆の発生推定時期と同じ07月31日±が計算できます。

また先のK6-BFの06月に入ってからの顕著出現と同期して、八ヶ岳のCH07観測装置に基線幅増大BT前兆が出現しだしています。このBTの日々変化を見ますと、午前09時±と夕刻19時±に変化が認められ、No.1778前兆で出現した多数のBTとほぼ同じ変化時刻(午前09時±と夕刻18時±)を示しています。

(ちなみにBT変化時刻は地震によって異なり、深夜である場合もありました。ふたつの時刻が現れますが、過去例では、どちらかの時間帯と地震発生時刻が1時間程度内で一致しています)

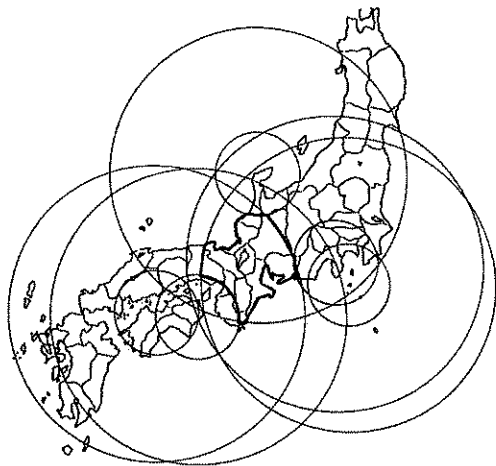
これらのNo.1778前兆との共通点の他、K6-BFを主とした前兆群=No.2630前兆で出現した観測装置の影響局とA6の影響局からNo.1778前兆からの推定領域が同一となること等から、前頁に示

した、No.2630前兆とA6前兆は、No.1778前兆の別形態前兆であると認識されます。過去にも長期継続出現前兆で大型地震の場合には、前兆終盤時期に、規模が小さい形態で、あたかも別地震の様な形態で同一地震を示す別形態前兆が出現してきた経緯があります。

本年01月22日極大認識が最後の極大であれば、06月12日±に全ての関連継続前兆が終息するはずでしたが、新たな前兆群が出現した関係で、CH16とCH21の特異が終息しないで継続している可能性が示唆されます。これ以上新たな別形態前兆が出現しない場合は、07月20日±頃までには前兆終息が計算できます。現在、CH16もCH21も、前兆レベルは非常に小さくなっています。

現在までの前兆変化で、07月31日±3 発生の可能性を否定する強力な根拠変動は認められませんので、現推定通りで現状は修正ありません。今後、発生時期を修正する必要がある根拠前兆変動が出現した場合は、続報でご報告致します。

No. 1778 前兆 推定領域



明確なPBF前兆より求めた大枠推定領域

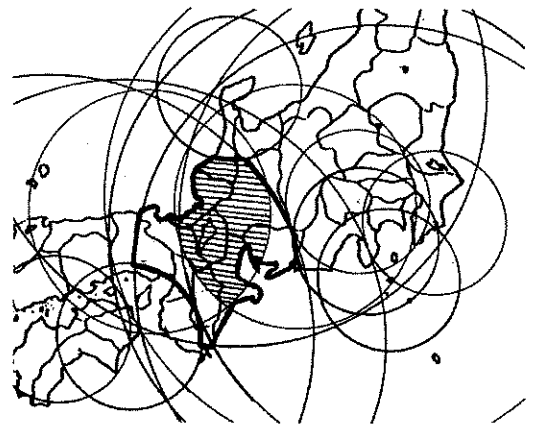
明確なPBF前兆より

- CH08=伊豆100w
CH09=輪島100w
CH15=新居浜100w
CH16=新島100w
CH20=日和佐100w・新居浜100w
CH23=伊豆100w・新居浜100w
CH26=伊豆100w・新居浜100w

No.2630

- 明確なBF前兆より
K6=新居浜100w・伊豆100w
K8=三峠100w
CH32=勝浦100w

続報No.85(4/25)で、推定領域につきましては、近畿圏でも琵琶湖を含む西側領域の可能性が高いと報告致しました。その後、前述のとおりNo.2630前兆他が観測され、前兆形態と影響局から、琵琶湖を含む東側領域の方が考えやすい結果となり、No.1778前兆を再調査致しました。BF前兆、PBF前兆の曲線の向き、特異状態ではないか等を調べ直した結果、明確なPBF前兆のみで求めた図(左図太線内領域の大枠推定領域)に変更はありませんでしたが、No.2630等で出現したBF前兆を加味しますと、下図の斜線領域のとおり、大枠推定領域の中でも中部～東部領域の可能性の方が考えやすい結果となりました。



◆推定領域=上図太線領域内
斜線域=可能性考えやすい推定域
(\*影響局誤認の場合は左図東北圏の可能性)

◆推定規模=M7.8±0.5 震源浅い地殻地震

◆推定時期=7月31日±2

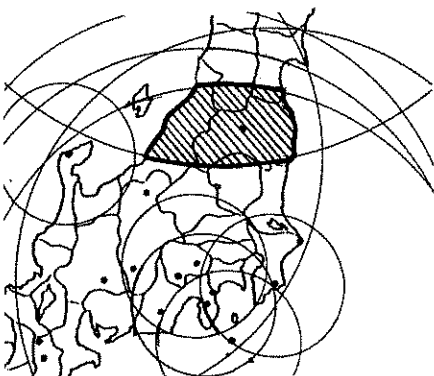
(7月31日or8月1日の可能性考え易い)

\*今後の観測で修正の可能性有。続報注意

◆推定発生時刻=午前9時±2時間内 又は
午後6時±2時間内

C) Copyright 2015 YSBO 八ヶ岳南麓天文台

BF前兆の他、特異状態は多々あり、飯田局・舞鶴局・大津局・氷上局・神戸局等の可能性があります。基線幅増大BTは、二つの影響局がある場合に出現しやすい前兆ですが、特異・BTの情報を加味しても、右図の斜線域を、より狭める要素はありませんでしたので、現状、近畿圏の場合は、大枠推定領域としては、右図太線領域内、可能性が考えやすい領域としては、右図の斜線領域の可能性が示唆されます。影響局誤認の場合ですが、その場合は下図の東北領域の可能性が示唆されることとなります。但し、BF、PBFの曲線の向きや、基線に対し周波数の低い側



高い側、両局で出現しているBF、PBFもありますが、局がなかったり、辻褄の合わない前兆も出て参りますので、あくまでも右図の近畿(近畿・東海・中部・北陸)圏領域の可能性の方が考え易い状況です。

★発生時期につきましては、前兆完全終息の確認が重要ですが、07月下旬近くまで確認できない可能性もあります。現状の推定が正しいか否かは、推定時期ぎりぎりまで決定できない可能性もありますが、変化を見て続報させて戴きます。